

Phenomに使用させている新しい機構をご紹介します。



☆新しいリムポケット

左が従来の961リム用のポケットで、右が新しいCenterlock 2 Limb Pocketです。

これは従来型に置き換わるパーツではなくローコスト版のようです。

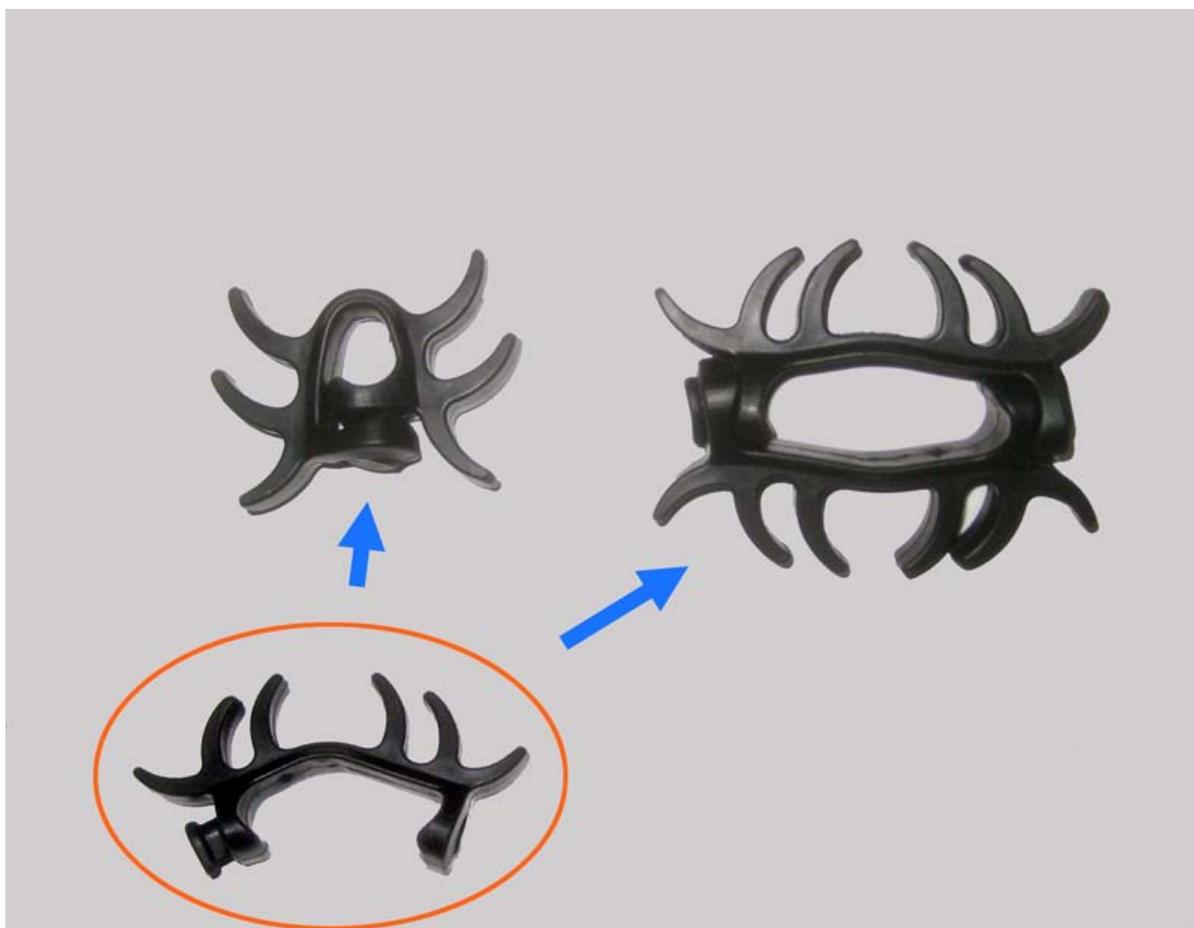
今の如適用しているモデルはプロシリーズでは、Drive・Phenomの2モデルです。

従来型との大きな違いはリムロックが従来型ではサイドにあります、タイプ2ではサイドロックは存在しません。

その代わりにリムボルトの締めすぎを防ぐためかハンドルに対応する面に突起が作られています。

これは必要以上にリムボルトを締め付けられないための方策とも思われます。

ポンドを少しでも上げようと過剰にリムボルトを締め付けて弓にダメージを与えてしまうユーザーも結構多いので。



☆セパレートタイプのリムバンド

従来のもは一体型のため取り替えの際にはいったんリムをハンドルから取り外さなくてはならず不便でした。

今回のものはフック付のセパレートタイプになり、写真のようにスプリットリムに個別に巻きつけたり、2個連結して従来型のように2本のリムを包み込んだりを好みで組み込めるようになっています。

カタログを見ると2012年まではリムだけではなくリムポケットにもバンドを巻いていましたが、2013年モデルでは写真を見る限りリムだけになっています。

こちらは、オプションで赤・黒・緑・青・ピンクのものも1月より出荷されるようです。



☆ヘッド回転型バックストップ

従来は固定型だったバックストップが、ヘッドラバーの位置を任意に変えられるようになりました。

これは新しいFlex Cable Slideに対応したものと思われます。

最近使用されるARCTECのCPRなどもそうですがフルドロ時にケーブルがストリングにより近づくようにチューニングするとケーブルがラバーヘッドに接触してしまうためケースによってはバックストップを除去しなくてはならないこともありました。

ケーブルとラバーが接触すると、その場でケーブルが切れたりすることはないのですがラバーが繊維にこびりついてしまうと摩擦によって繊維が徐々にダメージを受けてしまうのを確認していますので接触は避けるべきです。

このようにヘッドを回転できればその現象を回避することが出来るわけですし、従来はヘッドのセンターよりやや左側(レフティでき右側)にヒットしていたストリングとの接触点を中央にすることが出来ます。

尚、新しいFlex Slideですが当初から組み込まれているモデル以外に装着することは不可能なようです。

しかし、有効なシステムだと考えていますのでパーツを取り寄せて装着が可能かどうか試してみようと考えています。

2012.11.8

PSE 2013年モデル上陸第一号

PSE2013年モデル第一号としてPhenomが上陸しました。

Webでの発表時点でリムは898だと思いついていましたが、ワンランク上の961のようで、リムの途中で支点があるリムポケット(新設計)を使用しているようです。



ストリングはPSE純正で、高級仕様のABBではありません。

ストリングバックストップは新しいヘッド位置可変タイプ。

そしてストリングは59.1/8、バスケープル37.3/4、コントロールケーブルは39.1/4と従来モデルとは互換性がありません。

販売元としてはつらいところですが・・・・

詳細は後ほどご報告いたします。

2012.11.7

カムの傾き(lean・リーン)の調整

長い間ハイブリットカムの下カムのリーン(傾き)の調整は手を付けてきませんでした。

というのはハイブリットカムの上カムはヨークでリーン調整が簡単なのですが、下カムはカムの左右位置を変化させるしか調整方法が無いからです。

バスケープル・コントロールケーブルで上下カムはつながっているのでどちらかの変化は多少反対側に影響を与えるのですが、ごくわずかで調整のレベルではありません。

ケーブルガイドのオフセット量調整でも上カムは劇的に変化するのですが、下カムのリーンはあまり変化しません。

そこで下カムの左右スペーサーの厚さを変化させることでとりあえず垂直により近い状態になるようなコンビネーションを探してみました。

とりあえず下カムが垂直に近くなるようなポジションをスペーサーの組み合わせを替えながら探します。

前述のとおり、下カムは他の要素では大きな変化をしないので、まずここを抑えることにしました。

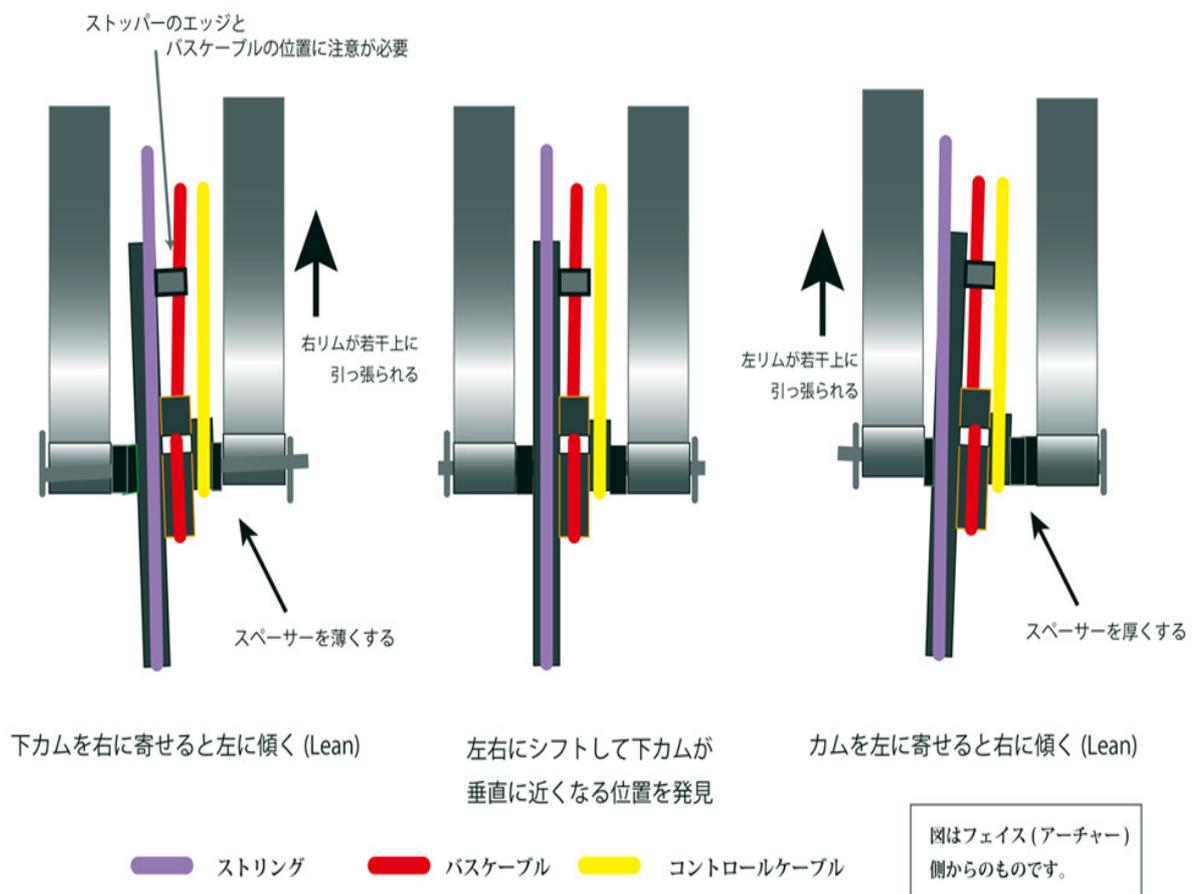
上カムはヨークの左右のツイストで後から調整できま



す。

ということで、作業を開始、何度かの試行錯誤の結果なんとか上カム・下カムのどちらもより垂直に近い状態にできました。

下カムの左右位置とリーン(傾き)の関係



スペーサー変更によるカムの左右ポジションとほかの要素の関係は上図のようになると思います。

ほぼ中央の図のようになる位置を発見してから、上カムの傾きをヨークのツイストによって垂直に近くなるよう調整します。

その時点で実射してみましたが、体感的にはスムーズ感が強くなっています。

次のステップとしてレストの位置とヨークの微調整を組み合わせるペーパーチューンを行います。

その後実際の距離で、グルーピングとヒットポジションのチェックに入りますがスケジュールの関係でそれらは後日に。

ところで、アローを真っ直ぐに押すための、カムのベストポジションは上下とも垂直かというと、より近いところではあると思うのですが必ずしもそこは限らないと考えています。

これはアローの静的スパインと、実際の発射時のたわみ(動的スパイン)の関係と同じで実射では、微妙にずれている可能性のほうが大きいと考えられるからです。

ヨークが登場した当初、多くのアーチャー(ショップまでもが)がブレースハイトポジションでカムを垂直に調整した結果、フルドローでカムが右側(レフティでは左)に過剰に傾かせた結果、大きな衝撃を発生させたり、リムの剥離を発生させたりしました。

今でもたまにこの手の調整をしている噂を聞きますがこれは大変危険だと考えています。

とりあえずフルドローで、少なくとも上カムは垂直に近い状態に調整し、実射とグルーピングチェックをしながらヨークの増減によって一番良い結果が出るところを発見するステップがベストだと考えています。

下カムは前述のとおり、調整要素がカム位置のシフト以外にはないと言えるのでとりあえずは無視しても良いと考えます。

メーカーによっては下カムはいじらずに上カムだけを調整してくれということもあるようですが、どうしても満足できなければ、今回の方法に頼るしかありません。

ここで注意していただきたいのは、この作業のためにはセットを何度もボウプレスにかけなくてはならないため、操作には最新の注意が必要です。

特にここ数年の、**Beyond Parallel Limb**といわれるブレースハイト位置ですでにリムが逆ぞりしているモデルでは、きっちり調整され安全に作られたボウプレス(必要によってはアダプタ)が必須です。

ハンディタイプのボウプレスでは作業不可能と考えたほうが良いと思いますのでご注意ください。

2012.11.6

追記(PSEボウとリムボルトの関係)



前の記事で、PSEボウのリムボルトに関し言及しましたがわかりやすくするために画像化してみました。

左はストレート(軽いリフレックス)代表でDominator、右はエクストラ・リフレックス代表でStilettoのライザーの例です。

写真と角度はかなりラフで精度は欠くかもしれませんが、意味はわかっていただけると幸いです。

ここでPSEがいうようにリムボルトを4回転緩めるとリムがボウプレスのプレッシャーに対して立つ方向になるため上記のトラブルの可能性はかなり軽減されるはずです。

ストレート系のライザーであるDominatorやSupra、新しいPhenomなどではこれをやらないとハンドルへのストレスが大きくなるため注意が必要だと思います。

特に、リムの換装のようにリムを完全にストレートに戻す作業の時には必須です。

2012.10.8

Drive Camへの換装(Stiletto)

現在メインで使っている、Stiletto MEのドローフィーリングが私にはきつすぎるように感じるのでソフト化を図るため、カムを口径が大きくソフトでややファジーな傾向にある1.25カム・Drive Camへの換装を開始しました。



さて、**Stiletto**と**Revenge**は良く見るとハンドルライザーは同じもののようです。

そこでカムとリム、そしてストリング類を手配して**Stiletto**に**Revenge**のユニットを取り付けてみることにしたのですが・・・

カムとリム(想定40#)は先に到着していたので、PSE推奨のレイアウトパターンに従ってセットしてありました。

別途手配してあった**America's Best Bowstrings**のカスタムストリング/ケーブルもやっと到着したので、組み替えを開始。

まず、PSEの注意書きに従ってリムボルトをMAXより4回転緩めてからボウプレスにかけます。

当初この意味が良くわからなかったのですが数モデルのリムの換装をしているうちに納得。

フルボルトではリムがフルに伸びた状態になるため、そのままボウプレスにかけるとリムが直線的に押されるため、ハンドルライザーにストレスがもろにかかってしまいます、

今回の**Stiletto**のようにリフレックスが強いモデルはまだましなのですが**Dominator**や**Supra**のようなストレートに近いライザーでは顕著です、

注意しないとハンドルライザーの変形や破損につながりかねませんし、プレスのアームからリムが外れる可能性も高くなります。

ここでPSEがいうようにリムボルトを4回転緩めるとプレスのアームでテンションをかけてもハンドルにストレスがかかりにくく、リムが曲がる方向で圧力がかけられます。

2013年モデルでPSEが多くのモデルでリムボルトの回転数を多くしたのはこの辺への配慮と思われる。

当然リムボルトでの調整範囲が結果的に広がるのですが、ポンドの調整範囲を広げるためと短絡的に判断しては間違いのもともと思います、

ケーブルのテンションなどの問題も含め、リムボルトはMAXに近いほうがパフォーマンスは発揮されやすく、リムボルトが緩いほどトラブルの発生率が高くなると思います。



さて、細心の注意を払いながらリムの換装を終了。

まず、ブレースハイト位置でカムマークによるのシンクロをチェックします。
(Drive Camの上カムにはドローストッパーが付いていないのでフルドロではチェックしにくい)

その後、ドロイングマシーンを使用して、ファームウェイレストのアームのリフトの調整、フルドロでのカムの傾き(リーン)の調整を行います。



さて、ここでは10数年前に導入し以来大活躍しているHooter Shooterを使用しているのですが一つ注意が・・・

このセットにはABBの新しいレスト、Rubixを使用しているのですがこのレストの水平方向調整用のノブの幅が大きいためHooter Shooterのフレームと接触してしまうのです、

Hooter Shooterにはハンドルサポーターがロングとショート2種類ありますが、いままではBowmanのような特殊な形状のモデルのためにショートを使用しておりました。

ところがショートだと、Rubixのような幅広のレストだと丁度写真のHooter Shooterのロゴ辺りのフレームとレストのノブが接触。その状態のままフルドロースるとハンドルに負荷がかかり捻じられてしまうのに気が付きました。

これはライザーの破損や変形につながりかねないので注意が必要です。

今回はサポーターをロングに換装して問題は解決しました。



さて、調整も終了してPSEのRevengeオリジナルと比較してみました。

組み上げ終了したものが上、下がオリジナルのRevenge DC。

結局、StilettoとRevengeのハンドルライザーは同じもののようです。

つまり、DCカムがついたのがRevenge、MEカムがStilettoという名称になるようです。

しかし、エンジンであるカムが変わるので組み合わせられるストリング/ケーブル、リムの仕様は当然異なります。

今回は私自身の体力も考慮しメーカーの標準ではない40#を目標としました。

リムの厚さは経験から選択した898リムのNo.12を選択。

実装で、フルリムボルトで42#ですから計算通り。

使っているうちに若干落ちるので40#ということです。

さて、MAXで40#にするためにはStiletto MEではNo.9リム、Revenge DCではNo.12が必要です。

尚、PSEの公表のチューンチャートには40#にするためには掲載されていませんが、おそらくPSEにカスタムのRevenge 40#を発注するとついてくるのはこのNo.12リムだと思います。

(ちなみに50#ではNo.14)



肝心のドローフィーリングですがMEカムより口径が大きい所為もあり、まったく予想通りのフィーリング。

旧タイプであるVendetta XS・L6カムよりはややパワフルといったところです。

さて、初速を比較計測してみました。

アローはVAP600番で重量300.6グレイン、比較用のセットはほぼ42#ピークです。

☆Stiletto 改 (Rebenge) 244fps

☆Vendetta XS 236fps

☆Stiletto ME 247fps、
 とほぼ予測通り。つまり1.5カムでややハード系ともいえるMini Evoに対し、1.25カム・ソフト系であるDrive Camは初速でやや劣る。

2011年の同じくソフト系1.25カムであるL6カムより初速はアップということのようです。

ドローレングスさえ許せば、体力にあまり自信がない方には1.25カム系のDrive Camをお勧めします。

難しいとは思いますが、もし、PSEがMini Drive Cam (MDC)を作ってくれば日本向け(特に女性)に販売しやすいのですが.....

2012.10.7

PSE 2013モデル考察 PSEカタログ				
モデル	リム	カム	ケーブルガイド	コメント
Dominator MAX	961?	ME	Flex	ケーブルガイドが変更。 ブレースハイとが7.1/2から7.3/4. インチへ 軸間が40から40.1/4" ポンドが50-70#から50-60#へ 重量が4.9ポンドから4.7ポンド リムボルトのターンが6回転から10回転 スtringing/ケーブルのコンビネーションは不明 ライザーもケーブルガイドの装着部分以外で加工が変わったかどうかわかりませんが物理重量を替えているので変更した可能性もあります。 どちらにしてもよりターゲット指向が強くなったと言えると思います。それも60#MAXなので WA競技をかなり意識したようです。
				40 40.1/4"

Supra MAX	961?	ME	Flex	<p>軸間が から</p> <p>写真を見るとリムが898からより高級な961に変更になったようです</p> <p>ケーブルガイドがFlexに</p> <p>質量は4.6ポンドと0.1ポンド増</p> <p>リムボルトのターンが6回転から10回転</p> <p>後は変化なしのようですが、ローコストターゲットから高級ターゲットモデルに変身!! その分価格は上がっています。</p>
Phenom	961?	ME	旧タイプ	<p>ローコストだった旧Supra Meの後継機種のようなので</p> <p>軸間は36"</p> <p>重量は4.3ポンド</p> <p>リムボルトのターンが10回転</p> <p>*リムは898ではなく961のようです。訂正します。</p>
Dream Season DNA	961?	CC	Flex	<p>EVOシリーズを一つにまとめた後継機種のようなので新しいCC(Core Cam)を採用したモデルです。</p> <p>fpsは352-344と高速</p> <p>軸間は31"</p> <p>ブレースハイトは6"</p> <p>珍しく50-55-60-65-70とポンド設定は5ポンド刻みです。</p> <p>リムボルトは10回転</p> <p>重量は3.7ポンドと軽量タイプのハンティングボウのようです。</p>
Stiletto	898?	ME	旧タイプ	<p>大きな変更はないようですがドローリングスが22.1/2-27"が23-27.1/2"に変更になっています。</p>
Revenge	898?	DC	旧タイプ	<p>バックストップがアジャスタブルタイプに変わっただけで大きな変更はなさそうです。</p>
Chaos AD	898?	AD	旧タイプ	<p>カムがFCから新しいAD(Adapta Cam)に変更されています。</p> <p>軸間が伸び32から32.1/4"</p> <p>fpsも284-276から298-290へアップ</p> <p>レットオフが70から75%</p> <p>ドローリングスが16-27が16.1/2-28"へ</p> <p>リムボルトが4から8回転に</p> <p>性能アップと同や調整範囲が広がったようです。</p>
以上、当ラボで取り扱う可能性があるもの、新機軸のモデルをピックアップしてみました。				
2012.9.28				

PSE2013年ラインナップ(速報)

☆PSE2013モデル 手元にカタログのpdfが到着しましたので詳細を確認中です。

☆カム

Core Cam (CC)

新しい が追加されたようです。

☆ケーブルガイド

新しいフレキシブルなフラットタイプのケーブルガイドが登場。

OMEN・DNA・EVO MAX・Dominator MAX・Dominator 3D MAX・Supra MAX に装着済ですが、2012年以前のモデルに取り付けることが出来るかどうかは不明です。

☆バックストップ(ストリングストップ)

ストップラバーの位置を調整できるものが発表されました。 Drive以外のProシリーズモデルに標準装備されています。 Driveはバーが曲がったタイプが組み込まれています。

☆リムダンパー

従来は交換する際にはリムを取り外す必要がありましたが今回はセパレートタイプのものを組み上げるように変更されました。

★プロシリーズ

EVO7、EVO SDがカタログ落ち。

Dream Season DNA、EVO MAX、Hammer、Drive、Phenomが新登場。

★メインライン

Bowmadness XL XS、Deer Hunterがカタログ落ち。

Prophecy、Sinisterが登場。 といったところです。

★リカーブボウは現在情報なしです。

2012.9.28

Drive Camのテスト準備



現在、2012年モデルのStieletto ME(Mini Evocam)を使用していますが45#で引きつられリリースをするなどして、ちょっとめげて40#にリム換装しました。

辛うじて使えるようになったものの前年まで愛用していたVendetta XSに比較してドローフォースが過激で正直ややもてあまし気味です。

Mini Evocamは良いカムではあるのですがハイパワー狙いのところもあり、昨年までのL6カムに比較してアンカーリング近くまでダウンが始まらないので気を抜けない部分がありアンカーリング寸前にやぎくしゃく感があります。

個人的にはもっとまったりと引きたいのでちょっと迷っています。

27インチセットを26.1/2インチにしてから肘の痛みはなんとか抜けてきましたが、相変わらず慢性的な眼精疲労による集中力の欠如に悩まされています。最近まで愛用していたVendetta XSはそのまま保持してあるのでそれを使えばすむのですが、それでは面白くありません。

Vendetta XSの2012年バージョンであるRevenge DC(Drive Cam)にも興味がありちょっと迷っていました。

Drive Camは昨年までのL6カムと同様に上カムにストッパーを持たずケーブルトラックもラウンド形状です。

構成的には、1.5カムというより1.25カムともいべき性格を所有しており、1.5カムよりパワーは落ちるものの1カムより上、ドロワーフィリングは1カムよりややアクセントが強いものの、1.5カムほど過激ではないといえ、パワー関係図は1.5カム>1.25カム>1カムとなり、1.5カムをちょっとファジーに仕立てたものといえる位置づけになります。

私のように集中力が失われつつある還暦超えアーチャーにはそのファジーさがあるような気がします。

ということでかといってそのままL6カムでは進歩が無いので、L6カムの発展型であるDrive Camを試召すことにしました。

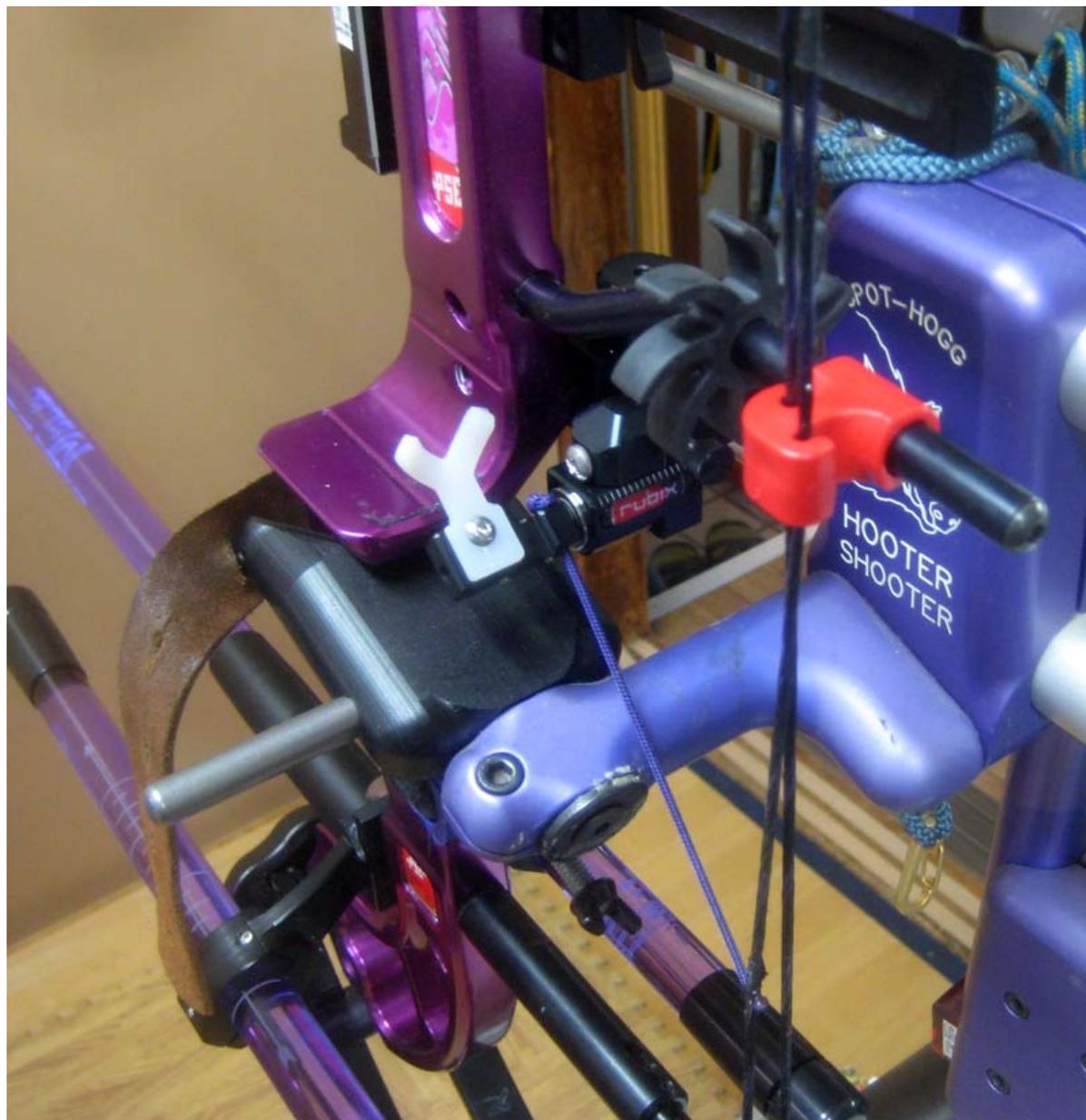
おそらくDCはL6よりアクセントが強くなっているはずなので、これでももてあます可能性はあるのですが・・・・・・

そうだったら素直にVendetta XSに戻せば済むことでもあるので、さて、現物は商品として手元にあるのですが、50#仕様なので私にはちょっときつい感じもあります。

そこで、40-45#辺りにリムを換装してStilettoと比較してみようかと考えています。

2012.9.14

ケーブルガイドのオフセット量



CPR-Systemのテストはあまり変りばえないということで中止し、元に戻そうとしたのですがカムのリーン(傾き)も変えてあったのでベストだったケーブルガイドのポジションがわからなくなっていました。

CPRはそのままでもよかったです、ケーブルガイドがねじで固定されているので何かのはずみで緩みオフセット量が変わってしまう危険性も考慮しメーカー標準のケーブルガイドセットに戻すことにしました。

仕方なく、他のセットを参考にメーカーが出荷するときの標準位置と思われる量に調整。
一旦、その位置を固定としてカムのリーンも再調整、ついでに到着したばかりのRubixレストとレストを交換。

アロー・スコープ・レスト位置をメーカーがハンドルに刻んであるライン上に並べてセットアップ。
そのうえで、実射しながら決めることにしました。

近射だと押手の反動等の認識があいまいになるので30メートルで実射することにしました。

するとCPRを使う前はあまり気にしていなかった、シュート時のトルクが気になります。

私の場合、リカーブ時代からの癖で上から見て右回り(時計方向)にグリップを捻じりやすいので右にミスをすることが多いのですが、とりあえずのセットではそれが顕著に出ました。

そこで、オフセット量を+-で変えて、トルクが一番発生しにくいポジションを発見することにしたのですが効果は絶大でした。
シュート時に抑え込むようにしなくてもフォロースルーで弓がまっすぐに保持できるようになりました。

とここまでで練習時間が終わってしまい、続きは2週間後しかできません。
さて、ここでちょっと悩んだのが可変したオフセットに合わせて、カムのリーンも再調整するかとどうかという問題です。

しかし、考えてみるとカムのリーンを調整するとまたトルクが発生する可能性のほうが大きいような気がします。

ということでしばらくはオフセット量だけで、距離で実射調整することにしました。

ところで、装着したRubixレストですがクリックも軽快で使い心地も良好です。
1クリックで0.0762mmの移動量なのですが、的面での効果というかグルーピングの反応はかなり大きなものがあるのでちょっとびっくりしました。

こちらも引き続きテストをしてゆく予定です。

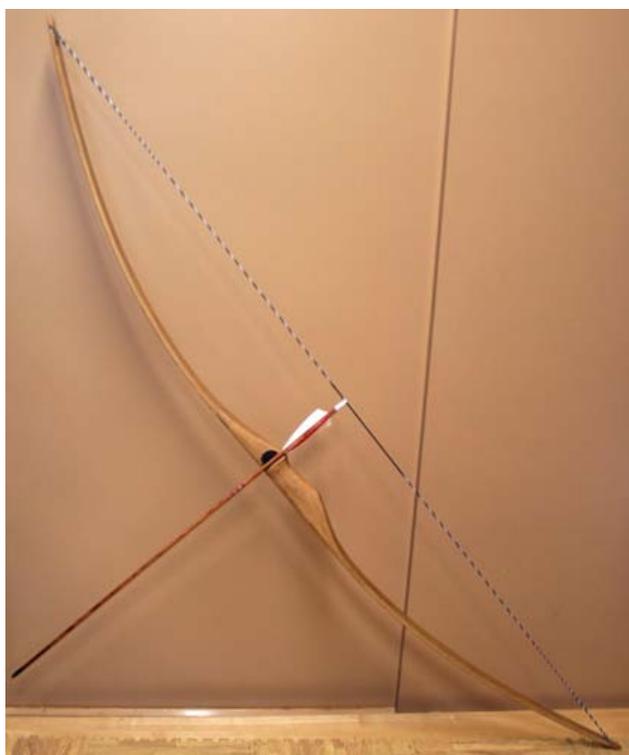
2012.8.13

English Longbow (レプリカ) 参考価格

アメリカやヨーロッパでトラディショナルボウがひそかなブームのようです。

私もどちらかというと競技指向が強いこの頃のアーチェリー界の中で、原始への回帰まではゆかないもののゆったり・まったりとした楽しみ方もありだなと考えています。

さて、ロビンフッドやシェークスピア時代の雰囲気を楽しみたい方のために簡単なガイドです。



イングリッシュロングボウ

ここでは最もプリミティブでローコストなBearpawのものを選択しました。

Bearpaw Twin Bow 68" Longbow
強さは20・25・30・35Lbsから選択可能です。

付属ストリングはダクロン製フレミッシュ

推奨ブレースハイトは6.3/4インチとなります。
BearPaw社のものは教材用的な要素が強い作り方をされており、一番プリミティブな構造をしています
が、材料はメイプル材とグラスファイバーという構成になっています。

他社のものは性能アップのためカーボンファイバーを使用したり、ファーストフライトストリング対応をしたりといろいろと凝ったものも存在します。

この辺りは好みで良いと思います。

20,000円

アローはターキーフェザーであればどんなものでも構いませんが、軽すぎるカーボンアローなどは弓の破損につながりますので使用は避けたほうが無難です。

また、レストが存在しない弓なのでフィルムヴェインやいわゆるビニールヴェインは使用できません。

ここでは、せっかくですからフェザー付シダーアローをお勧めします。

アローのスパインはウッドシャフトの太さで決まりますがここでは**5/16**口径(約8mm)のものが適します。

シダーアローはパイプ構造ではないので、インサート型のポイントとは使用できないため、オーバータイプのかぶせポイントとなります。

ここでは**100**グレインのフィールドポイントが丈夫さの面でもお勧めです。

ターゲットタイプもありますが**70**グレインのみでちょっとコントロールしにくいと思います。

パワーのある弓でしたら**125**グレインも選択肢に入ります。

尚、ポイントは**5/16**シャフト用は**70**グレインターゲット、**100**グレインフィールド、**125**グレインフィールドの中での選択となります。



アローは材料を購入して自作でも構いませんが、ここでは既製品をご紹介します。

Rose City シダーアロー 5/16インチ口径

フルレングス33インチ

左ピッチヘリカルフェザー付

ノックはBohning Classic Nocks 5/16"

272.9gr

デザインは指定できません。

12,000円

価格はアローレングス調整・ポイント取り付け費用込みになっています。



参考

ポイントやノックの再取り付けなどの時に便利なテーパーツール(大きめの鉛筆削りのようなもの)も同時購入しておくとう便利です。

500円 (5/16インチ用)

合計で**32,500円**で一応のセットが入手できます。(ツールなしで**32,000円**)

これらはすべて、取り寄せ品で常備在庫はしておりません。
ご希望の方はお問い合わせください。

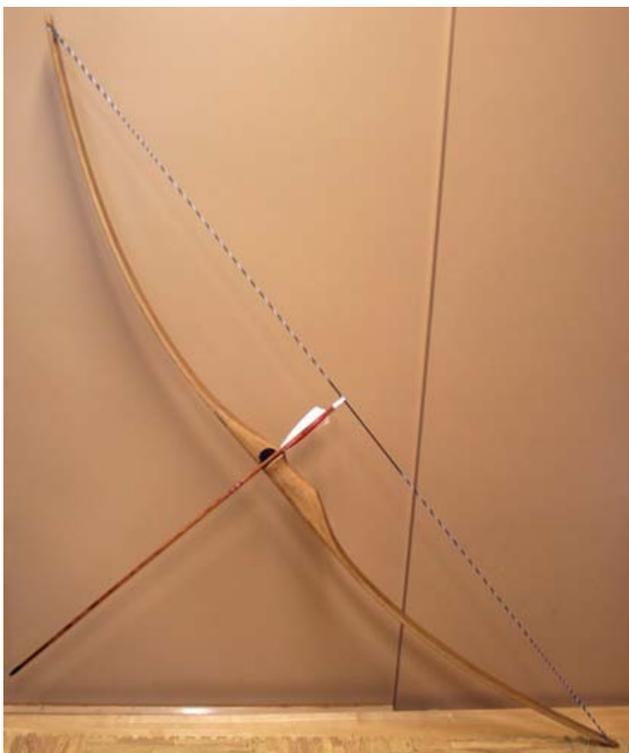
ロングボウは世界各地でいろいろなメーカーが製造していますのである程度の選択は可能ですが入手ルートの関係もありどのメーカーのものも可能なわけではありませんのでご了承ください。

2012.7.30

English Longbow (レプリカ)

昔からプリミティブな弓が好きだったので、とりあえず原型に近い恰好のイングリッシュロングボウを入手しました。

知り合いも興味を持っていたので、とりあえず、ローコストのもので、なるべくプリミティブなものをということで探しまわった結果ドイツのBearpaw社**68**インチ**35#**のものを発見しまし



た。

このモデルはローコストのどちらかという
ジュニア向け歴史教材として作られたような節
があります。

それだけによりプリミティブに造られていて
シェークスピア時代のトラディショナルロング
ボウに近いものがあるようです。

ただし、素材は現在ではイチイガシや楡そのま
まの単一素材・丸太弓というわけにゆかないた
めメープルとグラスファイバーのラミネートに
なっています。

最近のロングボウ(レプリカ)の多くがリムチップを補強したいわゆるファーストフライト現に対応した補強をしてい
るようですが、このモデルではそういった補強はされていないそうで付属品としてダクロンのフレミッシュが付いて
きました。

しかし、35#とは思えないぐらいに固いですね。

さて、アローはレストがない弓のため、アルミでも羽根がターキーフェザーであればよかったのですがせっかくなの
でウッドシャフトアローを手配。

USAのRose City製でフレッチング済、ポイント別売というものです。

シャフトスパインは太さで規定があるようで今回は一番細い5/16インチ(約8mm径)を選択しました。

ちなみに特に頼んだわけではありませんが左ヘリカルピッチのターキーフェザーがフレッチングされていました。

このアローはフリーサイズなので自分でカットし、かつ、ポイントはかぶせ式なので専用工具でテーパーに加工、接
着しなくてはなりません。

ということでポイント付け作業を開始しました。

アローはなかなかきれいな仕上げのものでノーカットでポイントを接着すると33インチになります。



さて、ウッドアローのポイントはかぶせタイプのもの(今
回は100グレインを選択)で先をテーパーに削って接着する
ことになります。

写真左はそのジグという大げさですが早い話がビッグサ
イズの鉛筆削りです。

接着剤は何を使うか未定ですが、強度を考えるとエポキシ
になると思います。





さて、弓と組み合わせると左の写真のようなアローアライメントになります。

今回入手したものは左右兼用という造りなのでちょっと形状が不思議ですがどのメーカーのロングボウを選択してもアローのアライメントは写真のようになるはずです。

これは素材の強度の関係で、いわゆるセンターショットラインおよびヴェインのクリアランスが十分に取れないからです。

このクリアランスが十分ないいわゆるセンターショットが通った弓が登場したのは比較的最近なのです。

いわゆるアルミ削り出しのハンドルライザーが登場し始めてからのことなのです。

さて、写真ではとりあえず右利きポジションである左側につがえています。

素材の強度の関係からいわゆるセンターショットラインにアローをセットすることは不可能なためアローの方向は右利きならアローは左に、左ポジションなら右にアローは飛んで行ってしまいます。

昔のボウハンター達の写真などを見ていただくとわかるのですが右利きなら弓の上側を右に傾けてシュートしているのに気が付くと思います。

アローは弓の傾いた方向に飛んでゆくの右利きの場合し弓を右に傾け(Canting)アローが左に飛んでゆくの補正しているのです。

映画RAMBOでスタローンが弓をどのように傾けているかを確認してください。スタローンは左利きなので左に傾けているはずですが。

ところで、イングリッシュロングボウに興味がある方はご連絡いただければ手配することも可能です。

今回のBearpaw社のものだけでなく、他メーカーのものも可能だと思いますのでお気軽に声をおかけください。

なお、当ラボはロングボウの世界に関しては素人です。ある程度のお手伝いはできますがシューティング技術的の問い合わせには十分な対応はできないとおもいますので予め承知ください。

2012.7.26

rubix レスト



ABBネタ第3弾ですが、年初からオーダーをかけてあったABB製CPレストrubixがやっと到着しました。

ATAショーで展示してからバックオーダーをかなりの数量抱えて四苦八苦していたようで半年遅れのデビューになりました。

さて、このレスト当初のカタログバージョンから何点か仕様変更があったようで、最終的にブレード仕様のターゲットモデルと、ファールアウェイタイプのコンパクトになったようです。

かねてから安全性重視の観点でファールアウェイ推進派の私としてはファールアウェイ仕様で使うことにしました。

尚、メーカー出荷時にはブレードが装着されたターゲット仕様になっていますが、レストアームの変更とねじ2本の調整で簡単に仕様変更できます。

ということでセットアップ、メーカー付属のセットアップマニュアルもあるのですがちょっと問題もあるうえわかりにくいので日本語マニュアルを作成しましたが、サイズが大きくなりすぎて環境によっては読み込めない可能性もありますがとりあえずアップしてみます。

なかで最も重要なのが、レストのリフトアップの調整で、フルドロー1.1/2インチでフルアップ、フルドローでも高さが変わらないように調整してくれとなっています。

この調整のためには、ドローイングマシン等のドローイングが任意固定できるようなジグが必要だと思います。

[rubix rest マニュアル日本語版](#)

価格は16,500円です。(現在は右用のみ入荷、左用は後日到着予定です。)

追伸:1クリック当りの移動量は0.003"(0.0762mm)とのことです。

2012.7.23

English Longbow (レプリカモデル)



ABBのフレミッシュストリングをきっかけに以前から興味があったロングボウを手配してみました。

現在、ロングボウは大小いろいろなメーカーで作られているようですが、往年のイングリッシュロングボウのような「イチイ樫の単一素材のもの」は良質な材料の入手が困難なため造られておらず、メープルとグラスファイバーや竹などの合成材料で作られているようです。

早い話が、リムがロングボウの格好をしたリカーブのないリカーブボウとってよい存在になっています。(変な言い方ですが)

さて、入手にあたりいろいろと調べて行くと、当ラボのメインであるPSEをはじめBear、Blackwidow、そして故アール・ホイットが創設したSKY、Martinといった大手ボウメーカーにクラフトマンの手作りまで様々なものが存在しているようです。

ただいろいろと調べていると素材の問題は仕方ないとして、ボウレングスが短いものも多く私が持っているイングリッシュロングボウのイメージとは合わずグリップ周りもリカーブボウ的なものがほとんどでした。

選択に当たり、長さは68インチ以上、ローコスト、かつプリミティブな造りのものということで調べた結果写真のモデル Bearpaw社のTwin Bow 68" Longbowに決定しました。

製造メーカーがドイツであり、しかも左右兼用というおかしな組み合わせになりましたがこのモデルが私の持っているイメージが一番近かったので選択しました。

America's Best Bowstrings



2月より取り扱いを開始した**America's Best Boqstrings**(以下**ABB**)ですが、コンパウンドボウ用だけではなくさらに発展させて**Traditional Bow**用のフレミッシュストリングもオーダーできるようになりましたが、注意点を数点。

Traditional Bowというカテゴリーは**USA**の通販ショップなどにも登場するようになってきましたが、多くの場合ハンドルにウッドを使ったオールドファッションタイプの(1本物や**TD**もある)を指していることが多いようです。

また、ショップによってはロングボウ(イングリッシュスタイルのロングボウ)もこの分野に入れてあることもある様です。

さて、注意すべき点はリムチップの加工レベルで、最新の多くのものは所謂ファーストフライト(通称になっている)用にリムチップを補強加工してありますが、中にはダクロン素材を前提に作られたものも存在するため注意が必要です。これらのモデルにファーストフライトや**8125**、**8190**などの高分子素材のストリングを使用するとたとえフレミッシュ構造で衝撃等は多少緩和されるもののリムチップを破損する恐れが皆無ではありませんのでご注意ください。

尚、ビンテージ物(最近の旧モデルのレプリカではなく**1960-90年代**のオリジナル物)にも同様の注意が必要です。

私の処では**Bear TD**のビンテージ物やキャロル・ルイスの**TD**を**FF**でシュートしたことがありますがとりあえずダメージは確認できなかったものの絶対的シュート数が少なかったからかもしれません。

今となつては、貴重なモデルが多いのでご注意ください。

2012.7.14